



# ELLE

35th Anniversary  
1969-2024

ファッション 8月号特別版  
AUGUST 2024

KANGAROO  
L'WITTON  
BLOUSE

## Number 1

情熱が導く、さらなる高みへ

パリ案内

ブルガリが1884年にローマで創業して今年で140周年。7人の女性との絆が浮き上がるキーワードの数々が、ブルガリが140年の時を経て、永遠に再生を続ける光り輝く存在であることに私たちに教えてくれる。

### ローマの光から始まる、まばゆく輝く物語

夢を見る準備をして、詩人ゲーテが「世界の歴史を結び結ぶことのできる都市」と言った街、ローマにいたと想像してみたい。夜の街が夜明けに変わり、新しい日が生まれる魔法のような瞬間、ローマ帝国時代からある広場の大理石の間から太陽が昇り、輝く輝く光で永遠の都市を包み込む。ローマの朝の輝きは独特の光を作り出し、カエルの記念品、ハロウク種式の染巻、意匠の縁の葉に降り注ぐ。これらから始まる物語の舞台は、朝の魔法のような光によって輝きを推す都市、ローマだ。そして語り手は年齢、背景、変化などすべてが異なる7人の女性。



創造性、スタイルアイコンとなるような個性、機知、自己一致性といった能力を併せ持つ、変化を恐れない非凡な女性たち。ルチア、サビーネ、スージー、ヨシエ、カイラ、アサ。そしてエリザベッタ。このインタビュは、1984年にソフィア・ブルガリがスペイン階段の上にあるシスターナ通りに最初の店舗を開いたことで始まった。ブルガリの創業140周年を祝うために行われたもの、このメゾンの特別なアンバーカラーを祝う記念日には、アン・ハサウェイ、ブリギット・ネグランド、リウ・イーフェイ、森屋らセレブリティが数え切れないほどのアーティストたちが出席する国際的なイベントがローマの街で行われ、ユニークな輝きを放つ新しい「エテルナコレクション」がお披露目された。

ローマに創設したギリシャ出身のソフィアは、後自身の人生で

でなく、ジュエリーの世界も永遠に変える転機を迎えた。劇画に次ぐ劇画を重ねて年々進化するメゾンを生み出し、以来ずっと、過去を再発見する以上の存在であることを目指している。声明された「永遠に再生される」という言葉通り、この記念日はブルガリにとって、メゾンを新たな視点で見つめ、未来について考える機会となっている。

### 7人の女性たちが語るそれぞれの永遠

ブルガリのクリエイティブディレクターで、ジェム(宝石)バイイングの責任者でもあるルチア・シルヴェストリの毎日は、貴重な宝石の色に囲まれたローマの朝の光から始まる。「私は色と触れること

が好きなの。誰にでも似合う。そして不可能だと思われるようなネックレスを想像するの」と言う。彼女の作品はこの記念日へのオマージュで、一粒のダイヤモンドの原石からインスピレーションを得た、永遠のシンボルとして誕生した光の雫。ダブルローレスの総重量140カラットにおよぶ「セルペンティ・エテルナ」という夢のような名前が付けられたネックレスだ。宝石を扱うこと

いうことは、永遠を扱うということでもある。このことは彼女がキャリアをスタートさせて以来、ブルガリアファミリーから受けた最も重要な教訓だったかもしれない。「男性が力を持つ環境で女性が働くのは簡単なことではありませんでした。そんななかでいつも私を導いてくれたのは、仕事への情熱と宝石と私を結びつける素晴らしいエナジーでした」



ELISABETTA DESSY  
エリザベッタ・デッシー モデル

# A MORNING IN ROME

ローマの朝の光を浴びて  
DESIGNER MAKIKO WATANABE

写真: 三浦 洋平/三浦洋平のタンサナイチが目を引くハイコンテクストのイメージ、朝の光のきらめきからインスピレーションを受けたセルペンティエテルナは、中央にルチア・シルヴェストリが着用している。ルチア・シルヴェストリは、ブルガリ140周年を記念した7つのダイヤモンドリングが総重量140カラットの「セルペンティエテルナ」ネックレス。



